

タイガーEXボード 9.5mm 耐力壁

【3 仕様木造軸組構法】

- ・標準仕様 国土交通大臣認定 FRM-0534-1
- ・床勝ち仕様 国土交通大臣認定 FRM-0594
- ・入隅仕様 国土交通大臣認定 FRM-0599

標準施工指導書

[令和6年1月版]



目次

項目	ページ
1. 耐力壁認定内容・適用範囲	2
2. 製品規格・標準寸法・物性	2
3. くぎについて	3
4. 柱頭、柱脚の補強	3
5. タイガーEX ボード取扱い上の注意	3
6. くぎ打ちに関する注意事項	5
7. 施工方法	9
7-1 標準仕様 (FRM-0534-1 : 2.3 倍)	9
7-2 床勝ち仕様 (FRM-0594 : 2.2 倍)	12
7-3 入隅仕様 (FRM-0599 : 2.3 倍)	15
8. 各部の施工方法	19

タイガーEX ボード耐力壁の施工に関する注意事項

タイガーEX ボードは木造軸組耐力壁の国土交通大臣認定を取得したせっこう系耐力面材です。耐力壁は、建物の水平耐力を請け負う構造耐力上主要な部分に該当します。そのため正しい方法で施工を行わなければ本来の耐力性能を得る事が出来ませんので、本書に従い正しい方法で施工して頂きますようお願いいたします。

尚、本書はEX ボードを1枚張りで耐力壁となすための施工指導書となっております。縦継ぎ張りで耐力壁とする場合は、各認定書およびP24「⑧縦継ぎ張りについて」を必ずご確認ください、ご不明点はお問合せください。

1. 耐力壁認定内容・適用範囲

表1 タイガーEX ボードを使用する耐力壁と認定番号

工法	認定番号	仕様	壁倍率	面材	使用くぎ	くぎピッチ
木造軸組 大壁工法	FRM-0534-1	標準	2.3	タイガー EX ボード	NZ50	外周部 75mm 中通り 150mm
	FRM-0594	床勝ち	2.2			
	FRM-0599	入隅	2.3			

[適用範囲]

- ・タイガーEX ボードを使用した耐力壁の適用範囲は、建築基準法施行令第40条～49条（ただし、第48条を除く。）に準拠した木造軸組となります。
- ・タイガーEX ボードを使用した耐力壁は、外周壁の屋外側下地材、室内側下地材および内部壁の下地材に用いるものとします。当該耐力壁を外周壁の屋外側下地材として用いる場合は、防水紙その他適切な防水措置を講ずるものとしします。
- ・建築基準法施行令第46条第4項の表1に定める軸組又は昭和56年建設省告示第1100号に定める軸組を併用する場合は、倍率5を限度としてそれぞれの倍率を加算できます。
- ・確認申請の際、大臣認定書（写し）の添付が必要になる場合があります。大臣認定書（写し）の入手についてはホームページまたは各支店 営業所にご請求ください。

2. 製品規格・標準寸法・物性

[規格]

- ・防火材料認定：NM-4127 不燃材料

表2 標準寸法

	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	参考重量 (kg)
標準寸法	9.5	910	3030	26

注1) 標準寸法以外のサイズについてはお問い合わせください。

表3 物性1 (試験方法はJIS A 6901による)

含水率 (%)	曲げ破壊荷重 (N)	
	長さ方向	幅方向
3以下	500以上	200以上

表4 物性2 (「一般財団法人 建材試験センター」による測定値)

項目	単位	物性値※
透湿率	$\text{ng}/(\text{m} \cdot \text{s} \cdot \text{Pa})$	14.6
透湿抵抗	$(\text{m}^2 \cdot \text{s} \cdot \text{Pa})/\text{ng}$	0.66×10^{-3}
	$(\text{m}^2 \cdot \text{h} \cdot \text{mmHg})/\text{g}$	1.4
透湿比抵抗	$(\text{m} \cdot \text{s} \cdot \text{Pa})/\text{ng}$	0.068
熱伝導率	$\text{W}/(\text{m} \cdot \text{K})$	0.26
熱抵抗	$(\text{m}^2 \cdot \text{K})/\text{W}$	0.037

※測定値であり、保証値ではありません。

3. くぎについて

くぎは、めっき鉄丸くぎ NZ50 (JIS A 5508 : 2009) を使用してください。

※NZ50 くぎは、当社でも販売しておりますのでお問い合わせください。

入数：2500本/箱 仕様：ワイヤ連結 250本×10巻 施工枚数（標準寸法の場合）：最大20枚/箱

4. 柱頭、柱脚の補強

柱頭、柱脚の継手および仕口に関する規定は建設省告示第1460号に規定されています。接合金物の選択は、但し書きを含めると下記3種類のいずれかの方法となり、壁倍率に応じた接合金物を確実に固定してください。

- ① 建設省告示第1460号表1～表3による方法
- ② N値計算法
- ③ 許容応力度計算

5. タイガーEX ボード取扱い上の注意

5-1 荷姿

保管荷姿は通常、タイガーEX ボード (9.5mm) で 80 枚を 1 山としています。
詳細な枚数については、最寄りの支店・営業所へご確認ください。

5-2 運搬

タイガーEX ボードの搬入は、建設元請業者の監督員との打ち合わせにより、現場の搬入計画に基づいて行ってください。

5-3 保管

- ・荷くずれ、角欠けがないように均等に置いてください。
- ・傾斜面、墨出し部に置かないでください。
- ・凸凹面や水漏れ部には置かないでください。上階から漏水の恐れがある場合や屋外の場合は、あらかじめシートなどでタイガーEX ボードが濡れないように養生してください。
- ・タイガーEX ボードの保管は、波打ちや反りを防止するため高さのそろった台上にボードの縁が台からはみ出ないようにしてください (図 1 参照)。また、各山の一番上のボードは裏面を上面とし、タイガーEX ボードを屋外で保管する場合は、必ずパレット積みとしてください。
- ・2 段積みなどを行う場合は、台木の位置を 1 段目と 2 段目で揃えてください。
- ・タイガーEX ボードを踏み台にしないでください。

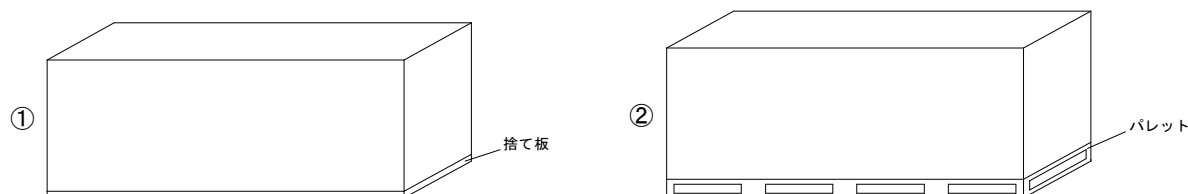


図 1 タイガーEX ボード保管概略図

6. くぎ打ちに関する注意事項

- ・タイガーEX ボードは、幅・高さの寸法に応じてくぎ本数が規定されていますので、P7 表5の一覧表に記載の本数を遵守してください。また、タイガーEX ボードは、原則1枚張りとします。縦継ぎ張りとする場合については、P27「⑧縦継ぎ張りについて」をご確認ください。
- ・くぎ留め間隔が外周部で75mm（マーキングからのくぎのずれの許容差：±8mm）以下、中通りで150mm（マーキングからのくぎのずれの許容差：±15mm）以下になっていない場合やくぎがめり込んだ場合、外周部75mm以下、中通り150mm以下になるようにくぎを増し打ちしてください（図2-1、図2-2参照）。
- ・くぎ打ちによる面材の割れが確認された場合、該当するタイガーEX ボードを全面取替えとします。
- ・木材の節などによりくぎが斜めに打ち込まれ、下地から外れている場合、その近くにくぎを増し打ちしてください（図2-2参照）。
- ・くぎ頭が面材と面一になるよう、自動くぎ打ち機の設定およびエア圧を調整し試打後にくぎ打ちしてください。また、樹種毎に調整をお願いいたします（図3参照）。
- ・自動くぎ打ち機で打ち込み不足が生じた場合、ハンマー等にくぎ頭が面材と面一になるよう留め付けてください。
- ・自動くぎ打ち機で施工する際、間柱、継手間柱などからくぎが外れた場合にくぎが貫通し施工面の裏側に飛び抜ける恐れがありますので、必ず反対側に人がいないことを確認してください。

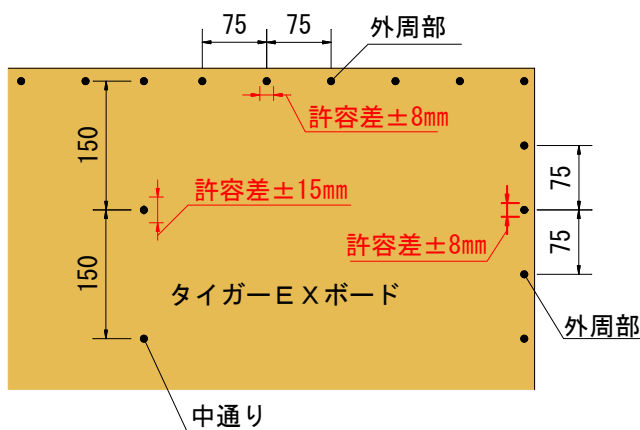


図2-1 マーキングからのずれの許容差について

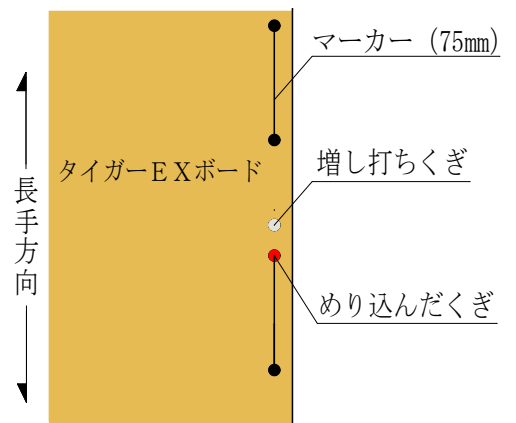


図2-2 増し打ち概略

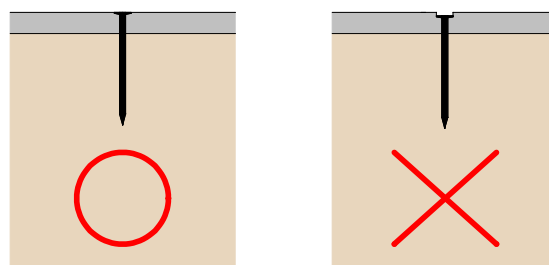


図3 くぎめり込み概略

- ・タイガーEX ボードの長手方向にくぎピッチを示すマーカートを外周部 75mm 間隔、中通り 150mm 間隔の黒色の破線で示していますので、規定の留付け間隔になるようにくぎ打ちを行ってください（図 4-1 参照）。

タイガーEX ボードの短手方向にマーカートは入っていません。面材外周部の規定ピッチと縁端距離を守って施工時にマーキング等をしてからくぎ留めしてください。 マーカートは印刷の都合上、若干のズレが生じる場合があります。マーカートは目安とし、規定されたくぎの縁端距離およびくぎ本数でくぎ打ちしてください。

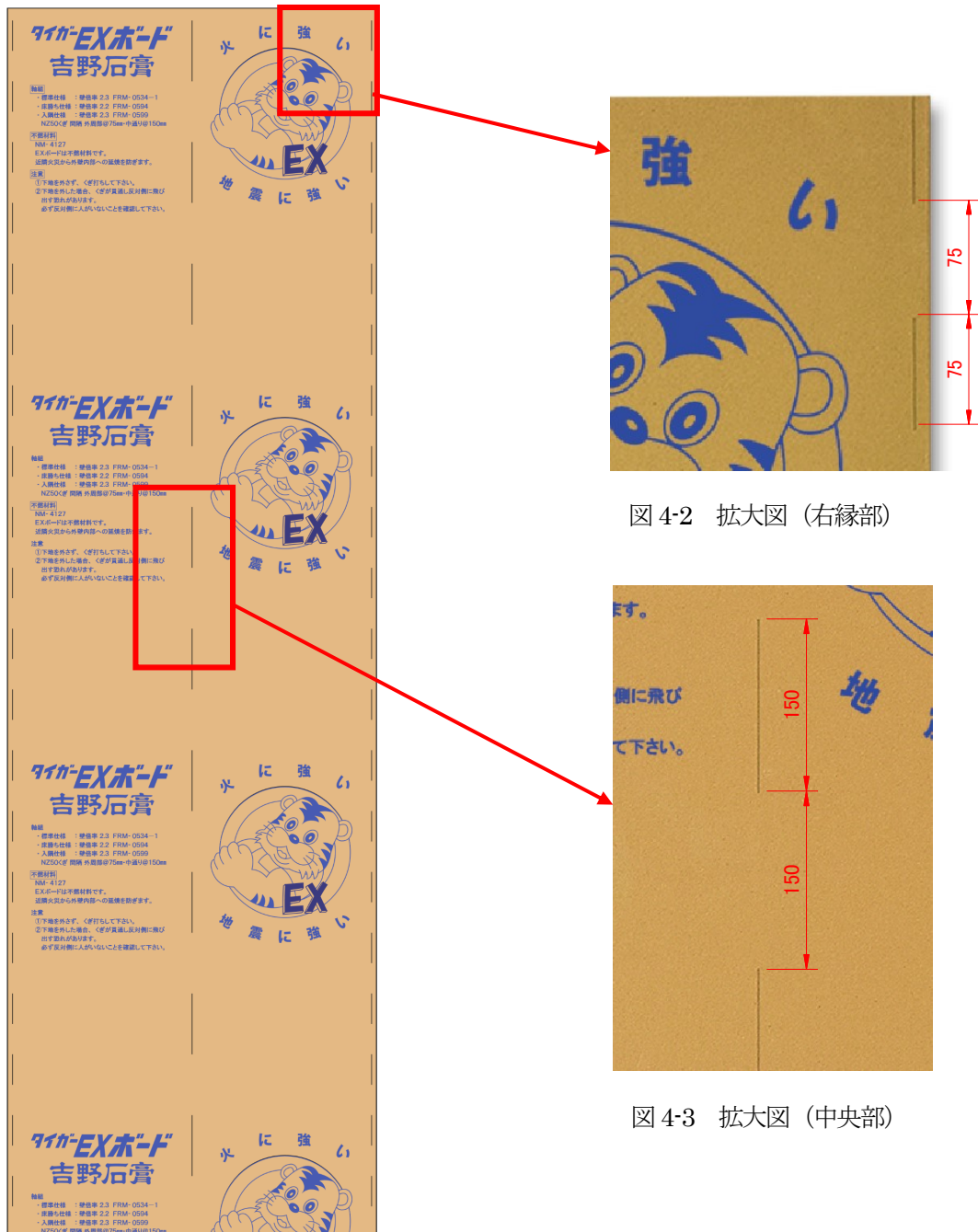


図 4-2 拡大図（右縁部）

図 4-3 拡大図（中央部）

図 4-1 タイガーEX ボード 3×10 板 外観（表側）

【くぎ本数一覧表】

- ・表5に、面材のサイズごとのくぎ本数が記載されておりますので、記載されている本数を遵守してください。
- ・くぎ本数の算出方法については、次ページをご確認ください。

表5 各仕様のくぎ本数一覧

種類	めっき鉄丸くぎNZ50					
間隔	外周部間隔 75mm 以下 中通り間隔 150mm 以下					
	面材長辺からの縁端距離	柱・継手間柱位置	12mm			
	面材短辺からの縁端距離	胴つなぎ位置	15mm			
		横架材位置	15mm			
			標準仕様	床勝ち仕様	入隅仕様	
本数	面材外周部 短手方向長さ	832mm 以上 849mm 以下	—	—	12本	
		849mm 以上 924mm 以下	—	—	13本	
		900mm 以上 924mm 以下	13本	13本	—	
		924mm 以上 999mm 以下	14本	14本	14本	
		999mm 以上 1000mm 以下	15本	15本	15本	
	面材外周部 長手方向長さ	2200mm 以上 2205mm 以下	30本	30本	30本	
		2205mm 以上 2280mm 以下	31本	31本	31本	
		2280mm 以上 2355mm 以下	32本	32本	32本	
		2355mm 以上 2430mm 以下	33本	33本	33本	
		2430mm 以上 2505mm 以下	34本	34本	34本	
		2505mm 以上 2580mm 以下	35本	35本	35本	
		2580mm 以上 2655mm 以下	36本	36本	36本	
		2655mm 以上 2730mm 以下	37本	37本	37本	
		2730mm 以上 2805mm 以下	38本	38本	38本	
		2805mm 以上 2880mm 以下	39本	39本	39本	
		2880mm 以上 2955mm 以下	40本	40本	40本	
		2955mm 以上 3030mm 以下	41本	41本	41本	
		面材中通り 長手方向長さ	2200mm 以上 2280mm 以下	14本または15本	14本または15本	14本または15本
			2280mm 以上 2430mm 以下	15本または16本	15本または16本	15本または16本
			2430mm 以上 2580mm 以下	16本または17本	16本または17本	16本または17本
	2580mm 以上 2730mm 以下		17本または18本	17本または18本	17本または18本	
	2730mm 以上 2880mm 以下		18本または19本	18本または19本	18本または19本	
	2880mm 以上 3030mm 以下		19本または20本	19本または20本	19本または20本	

〔くぎ本数の算出方法〕

・面材の外周部及び中通りの部分における、くぎ本数の算出方法について（図5参照）

面材の長手方向及び短手方向の辺長（H、L）から縁端距離（H1+H2、L1+L2）を引いた長さ（ $H - (H1+H2)$ 、 $L - (L1+L2)$ ）を算出し、その長さを各部のくぎ間隔（P、Q）で割ります。外周部のくぎ本数はその値の**小数第一位を切り上げて1を加えた値**とし、中通りの部分のくぎ本数はその値の**小数第一位を切り上げて1を引いた値**とします。

面材四隅のくぎは長手・短手両方向のくぎ本数として数えることとしますが、中通りの部分と外周部のくぎを結ぶ直線上のくぎは、中通りの部分のくぎ本数として数えないものとします。ここで、Lは900mm～1000mmのいずれかの値、Hは耐力壁の施工仕様に応じた下側もしくは上側の面材の長さの値、H1及びH2は15mm、L1およびL2は12mm、Pは75mm、Qは150mmとします。

計算例 幅910mm 長さ2740mmの場合

- ・長手方向 H=2740mm
- ・短手方向 L= 910mm
- ・縁端距離 H1,H2=15mm
- ・縁端距離 L1,L2=12mm
- ・留め付け間隔 外周部 P 75mm
 中通り Q 150mm

くぎの本数

長手方向： $(2740 - (15 + 15)) \div 75$
 $= 36.1 \Rightarrow$ 小数第一位切り上げ $\Rightarrow 37$
 $\Rightarrow 37 + 1 = 38$ 本

短手方向： $(910 - (12 + 12)) \div 75$
 $= 11.8 \Rightarrow$ 小数第一位切り上げ $\Rightarrow 12$
 $\Rightarrow 12 + 1 = 13$ 本

中通り部： $(2740 - (15 + 15)) \div 150$
 $= 18.1 \Rightarrow$ 小数第一位切り上げ $\Rightarrow 19$
 $\Rightarrow 19 - 1 = 18$ 本

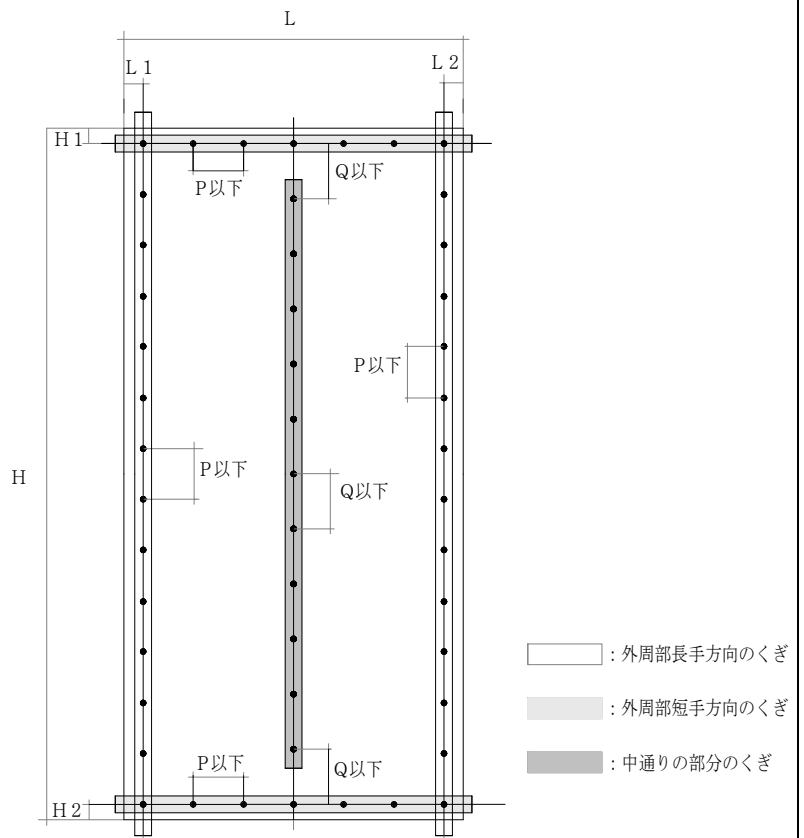


図5 タイガーEX ボードくぎ留め付け本数概略

計算結果 幅910mm、長さ2740mmの場合、くぎの使用本数は合計116本となります。


タイガーEX ボード耐力壁
標準仕様 (FRM-0534-1) : 2.3 倍

7. 施工方法

7-1. 標準仕様 (FRM-0534-1 : 2.3 倍)

施工においては、**図6**および**注意事項**に記載の内容を遵守してください。

※ここで横架材とは、梁・胴差・桁を指す。

 : タイガーEX ボード

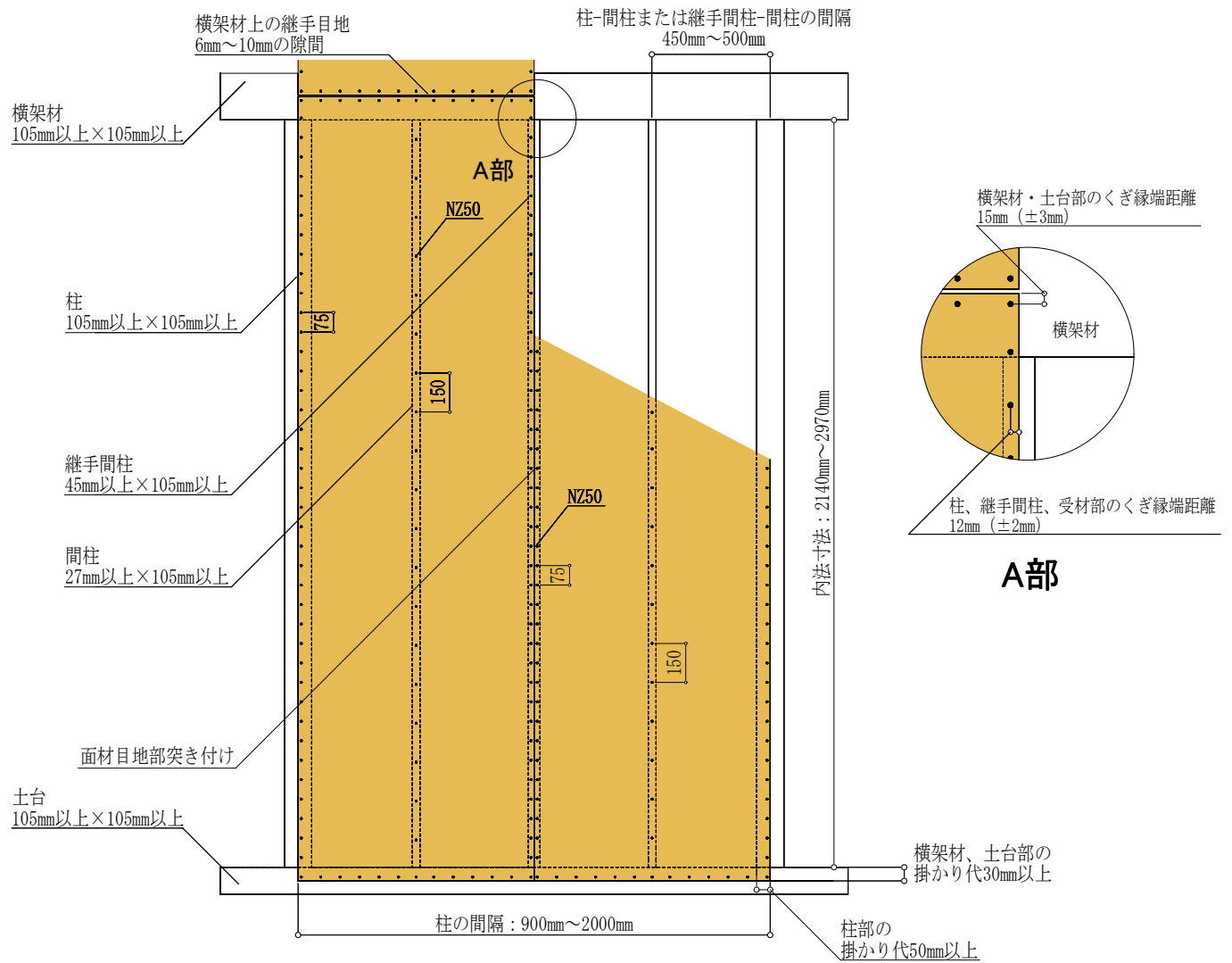


図6 標準仕様 (FRM-0534-1 : 2.3 倍) 施工概略図 (2P の場合)

〔標準仕様 (FRM-0534-1 : 2.3 倍) の注意事項〕

- ・タイガーEX ボードは、必ず軸組に直張りとし、面材同士を突き付けとなるように施工してください。
- ・タイガーEX ボードは、原則 1 枚張りとします。縦継ぎ張りについては、P24「⑧縦継ぎ張りについて」をご確認ください。
- ・タイガーEX ボードは、必要に応じてカットして使用してください（幅方向、長手方向とも）。
- ・図 6 は 2P の施工例となっておりますが、1P の場合も耐力壁とできます。
- ・継手間柱を用いてタイガーEX ボードを継ぐ場合、水平方向に 1 箇所までとし、突き付けとなるように施工してください。
- ・軸組材の寸法は、表 6 に記載の内容を遵守してください。
- ・面材の留付け方法は、「6. くぎ打ちに関する注意事項」を遵守してください。

表 6 標準仕様 軸組材の概要

部位	寸法等	
柱・土台・梁・胴差・桁	断面寸法	見付け 105mm 以上×見込み 105mm 以上
継手間柱	断面寸法	見付け 45mm 以上×見込み 105mm 以上
間柱	断面寸法	見付け 27mm 以上×見込み 105mm 以上
柱の間隔	900mm～2000mm	
面材の継手となる継手間柱と柱の間隔	900mm～1000mm	
間柱と柱または間柱と継手間柱の間隔	450mm～500mm	
横架材間の内法寸法	2140mm～2970mm	

例) 継手間柱、間柱等の取り付け方法。

イ：上下部に突き付けの上 2-N75 斜め打ち

ロ：上部にほぞ差し、下部土台に突き付けの上 2-N75 斜め打ち

ハ：上下部大入れ、2-N75 斜め打ち

ニ：上部大入れ、下部突き付け、2-N75 斜め打ち

タイガーEX ボード耐力壁
床勝ち仕様 (FRM-0594) : 2.2 倍

7-2. 床勝ち仕様 (FRM-0594 : 2.2倍)

施工においては、図7および注意事項に記載の内容を遵守してください。

※ここで横架材とは、梁・胴差・桁を指す。

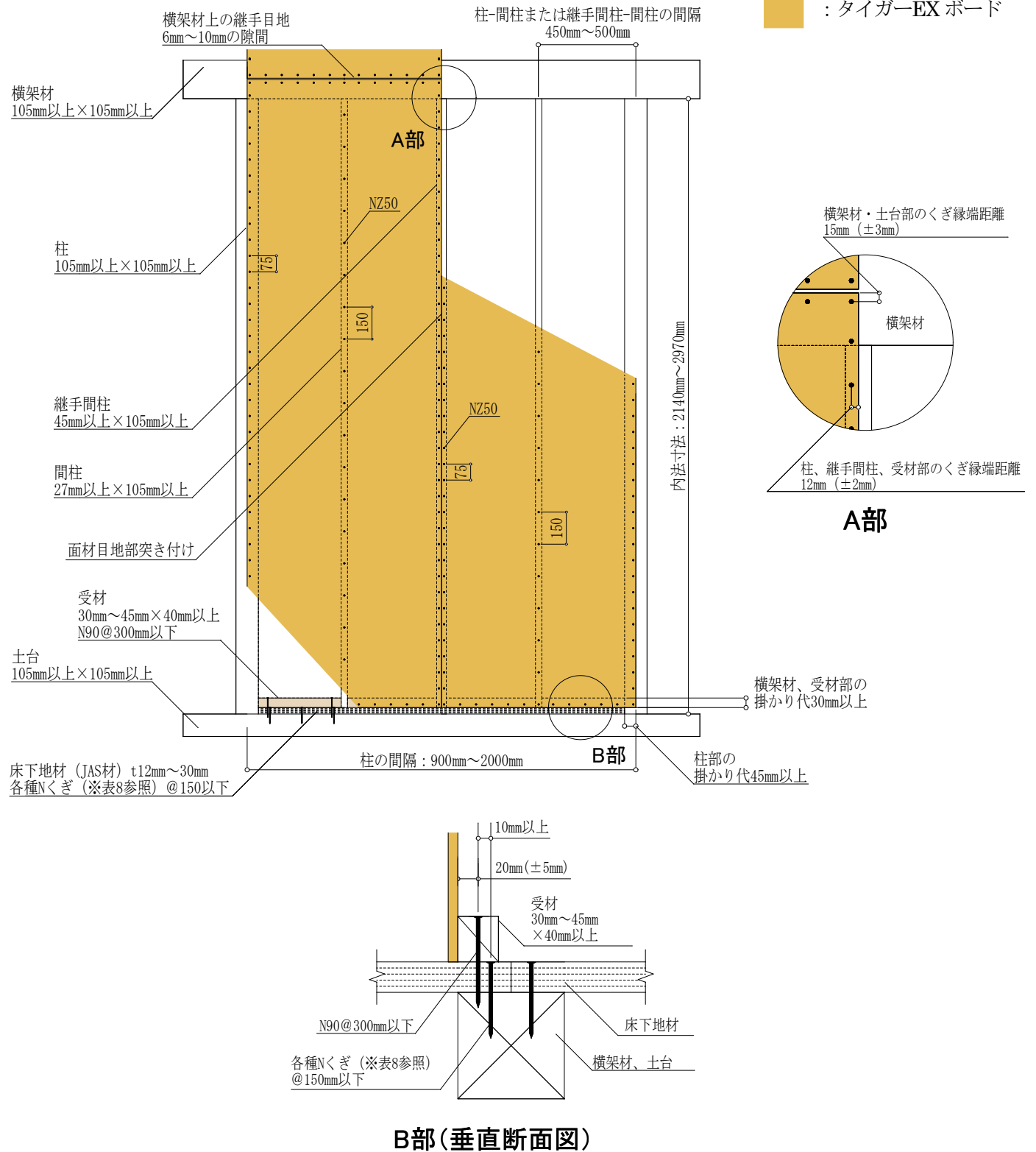


図7 床勝ち仕様 (FRM-0594 : 2.2倍) 施工概略図 (2Pの場合)

[床勝ち仕様 (FRM-0594 : 2.2 倍) の注意事項]

- ・タイガーEX ボードは、必ず軸組に直張りとし、面材同士を突き付けとなるように施工してください。
- ・タイガーEX ボードは、原則1枚張りとし、縦継ぎ張りについては、P24「⑧縦継ぎ張りについて」をご確認ください。
- ・タイガーEX ボードは、必要に応じてカットして使用してください（幅方向、長手方向とも）。
- ・図7は2Pの施工例となっておりますが、1Pの場合も耐力壁とできます。
- ・継手間柱を用いてタイガーEX ボードを継ぐ場合、水平方向に1箇所までとし、突き付けとなるように施工してください。
- ・軸組材の寸法は、表7に記載の内容を遵守してください。
- ・面材の留付け方法は、「6. くぎ打ちに関する注意事項」を遵守してください。
- ・床下地材は、厚さに応じたくぎ（表8）を用いて、150mm以下の間隔で留め付けて下さい。
- ・受材は、N90くぎを用いて300mm以下の間隔で留め付けて下さい。
- ・床勝ち仕様を入隅部に施工した場合は、雑壁となります。

表7 床勝ち仕様 軸組材の概要

部位		寸法等
柱、土台、胴差、桁、梁	断面寸法	見付け 105mm 以上×見込み 105mm 以上
継手間柱	断面寸法	見付け 45mm 以上×見込み 105mm 以上
間柱	断面寸法	見付け 27mm 以上×見込み 105mm 以上
受材	断面寸法	見付け 30～45mm×見込み 40mm 以上
床下地材 (JAS 材)		厚み 12mm～30mm
柱の間隔		900mm～2000mm
面材の継手となる継手間柱と柱の間隔		900mm～1000mm
間柱と柱または間柱と継手間柱の間隔		450mm～500mm
横架材間の内法寸法		2140mm～2970mm

例) 継手間柱、間柱等の取り付け方法。

イ：上下部に突き付けの上 2-N75 斜め打ち

ロ：上部にほぞ差し、下部土台に突き付けの上 2-N75 斜め打ち

ハ：上下部大入れ、2-N75 斜め打ち

ニ：上部大入れ、下部突き付け、2-N75 斜め打ち

表8 床下地材の厚さに対する使用くぎ（くぎピッチ 150mm 以下）

厚さ (mm)	くぎの種類
12mm 以上 15mm 以下	N50 (JISA 5508)
15mm 超え 20mm 以下	N65 (JISA 5508)
20mm 超え 30mm 以下	N75 (JISA 5508)

タイガーEX ボード耐力壁
入隅仕様 (FRM-0599) : 2.3 倍

7-3. 入隅仕様 (FRM-0599 : 2.3倍)

施工においては、図8および注意事項に記載の内容を遵守してください。

※ここで横架材とは、梁・胴差・桁を指す。

■ : タイガーEX ボード

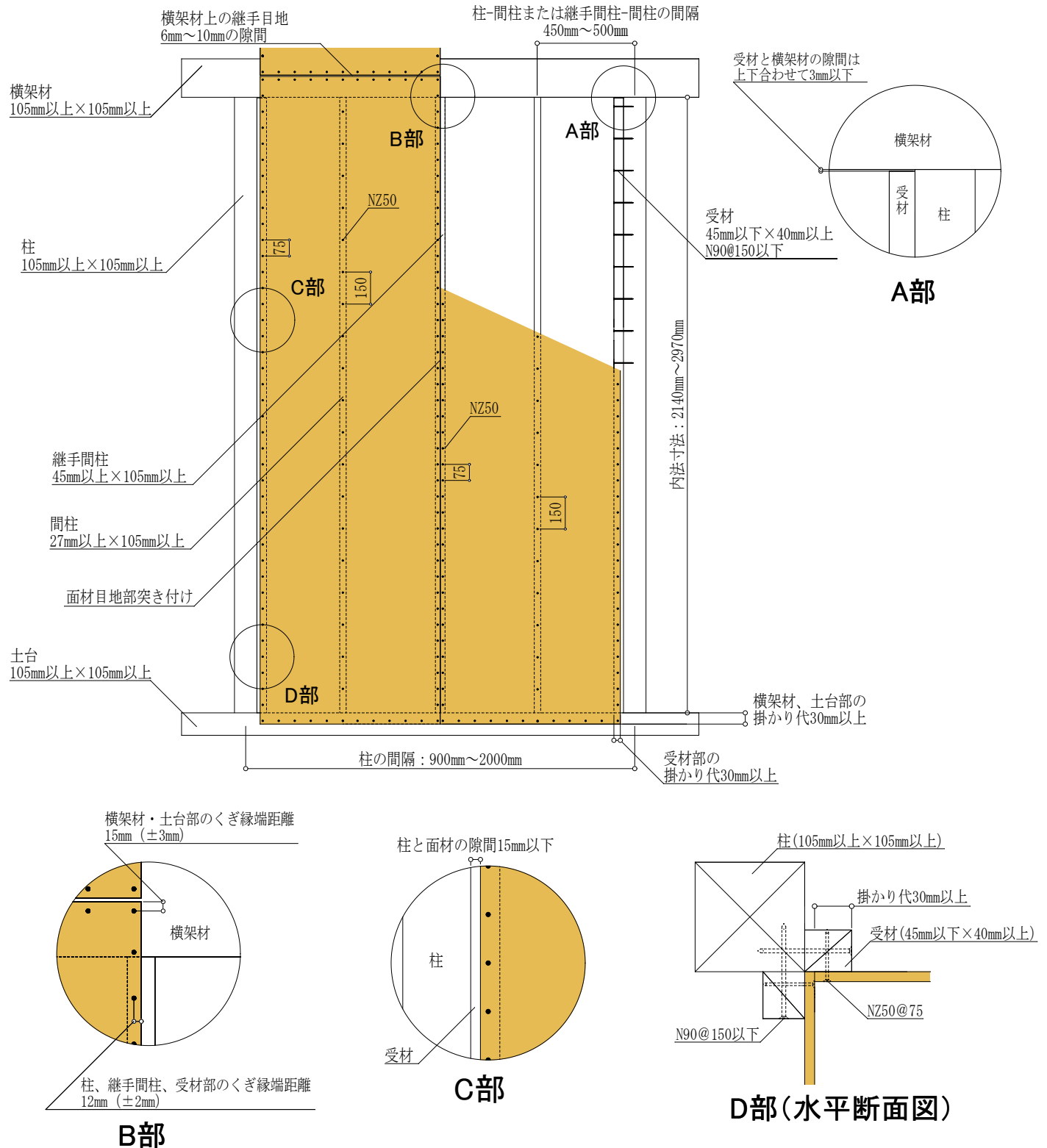


図8 入隅仕様 (FRM-0599 : 2.3倍) 施工概略図 (2Pの場合)

[入隅仕様 (FRM-0599 : 2.3 倍) の注意事項]

- ・タイガーEX ボードは、必ず軸組に直張りとし、面材同士を突き付けとなるように施工してください。
- ・タイガーEX ボードは、必要に応じてカットして使用してください (幅方向、長手方向とも)。
- ・タイガーEX ボードは、原則 1 枚張りとします。縦継ぎ張りについては、P24 「⑧縦継ぎ張りについて」をご確認ください。
- ・図 8 は 2P の施工例となっておりますが、1P の場合も耐力壁とできます。
- ・継手間柱を用いてタイガーEX ボードを継ぐ場合、水平方向に 1 箇所までとし、突き付けとなるように施工してください。
- ・軸組材の寸法は、表 9 に記載の内容を遵守してください。
- ・面材の留付け方法は、「6. くぎ打ちに関する注意事項」を遵守してください。
- ・受材は、N90 くぎを用いて 150mm 以下の間隔で留め付けてください。
- ・入隅仕様を床勝ちで施工した場合は、雑壁となります。
- ・1 つの耐力壁について、(1)片側に入隅部がある場合、(2)両側に入隅部がある場合のいずれも耐力壁 (2.3 倍) とできます (図 9)。尚、入隅部面材の勝ち負けおよび 1P・2P は問いません (例 : (3))。

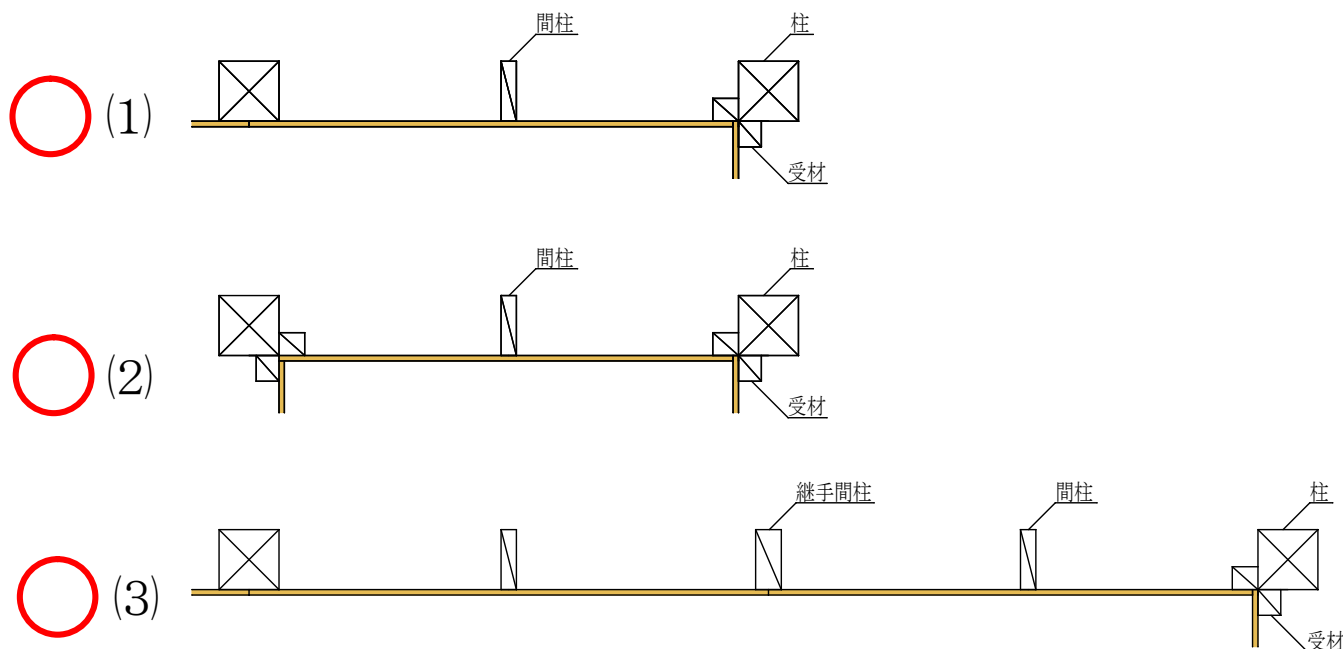


図 9 入隅部の納まり図①

・(4)直交する両壁ともに耐力壁 (2.3 倍) とできます。また、(5)直交するどちらかの壁が雑壁であった場合でも、もう一方の壁は耐力壁 (2.3 倍) とできます (図 10) 尚、入隅部面材の勝ち負けおよび 1P・2P は問いません。

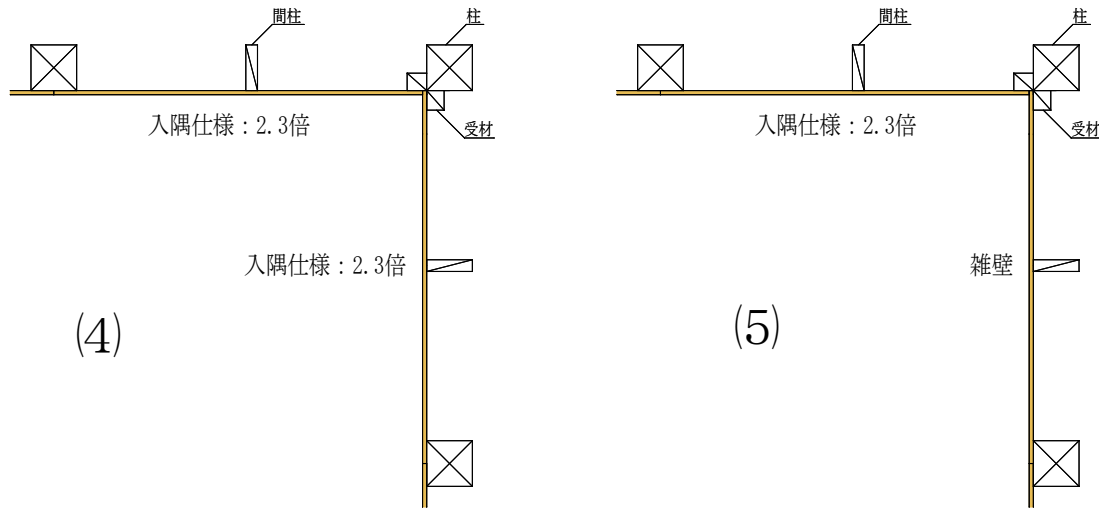


図 10 入隅部の納まり図②

表 9 入隅仕様 軸組材の概要

部位		寸法等
柱、土台、胴差、桁、梁	断面寸法	見付け 105mm 以上×見込み 105mm 以上
継手間柱	断面寸法	見付け 45mm 以上×見込み 105mm 以上
間柱	断面寸法	見付け 27mm 以上×見込み 105mm 以上
受材	断面寸法	見付け 45mm 以下×見込み 40mm 以上
柱の間隔		900mm～2000mm
面材の継手となる継手間柱と柱の間隔		900mm～1000mm
間柱と柱または間柱と継手間柱の間隔		450mm～500mm
横架材間の内法寸法		2140mm～2970mm

例) 継手間柱、間柱等の取り付け方法。

イ : 上下部に突き付けの上 2-N75 斜め打ち

ロ : 上部にほぞ差し、下部土台に突き付けの上 2-N75 斜め打ち

ハ : 上下部大入れ、2-N75 斜め打ち

ニ : 上部大入れ、下部突き付け、2-N75 斜め打ち

8.各部の施工方法

①出隅部分

出隅部分では、面材を軸組に直張りとした場合、直交する両側の壁ともに耐力壁の標準仕様（2.3倍）とできます（図11）。寸法の大きな柱（通し柱等）を併用して、外面合わせとする場合も同様です。

※当社の防火構造認定を使用する場合は、下地材があらわにならないようタイガーEX ボードで被覆してください。

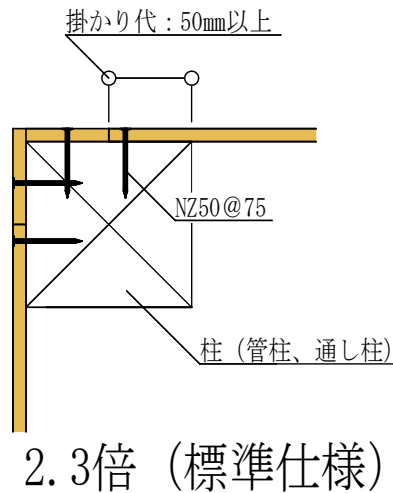


図11 出隅部（外面合わせ）の納まり図

②土台部分

図12に示すように、タイガーEX ボードが基礎に直接当たらないように、基礎パッキン等を用い土台下端より出ないようにしてください。

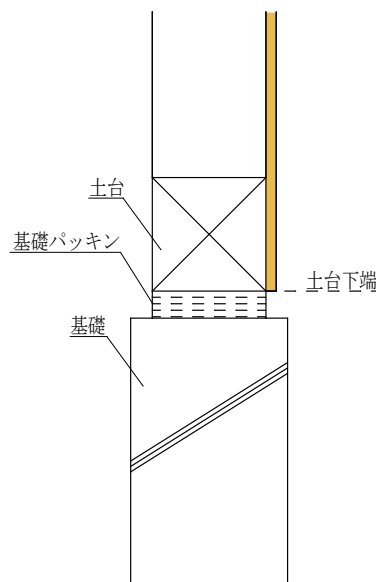


図12 土台部の納まり図

③バルコニー

タイガーEX ボードは、バルコニー等で床先行の場合でも図13のように床下地合板上に留め付けた受材にくぎ打ち施工することで耐力壁となります(2.2倍)。床勝ち仕様の施工方法の詳細は、P12を参照してください。

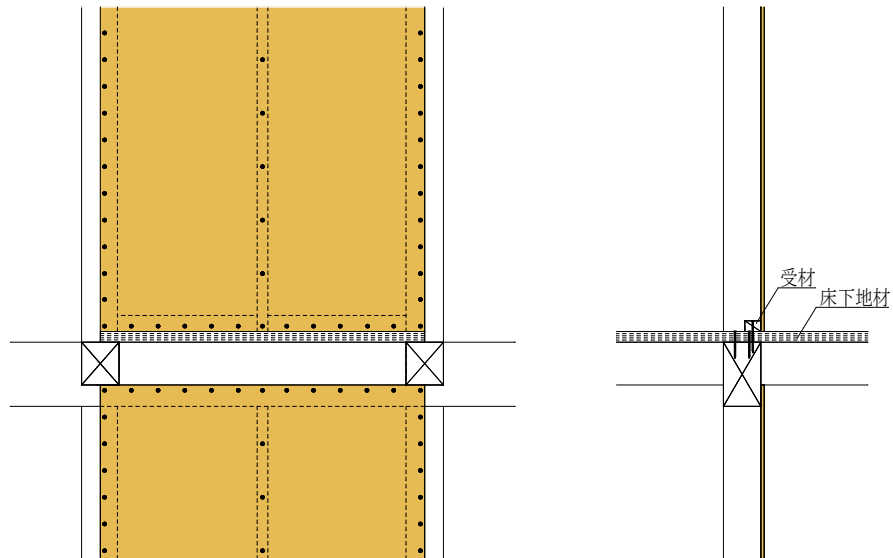


図13 バルコニー納まり図(床勝ち仕様)

④下屋、軒裏

タイガーEX ボードは、下屋、軒天井を取り付ける前に施工してください。受材はタイガーEX ボード上から柱、間柱等の木下地位置に取り付けてください。

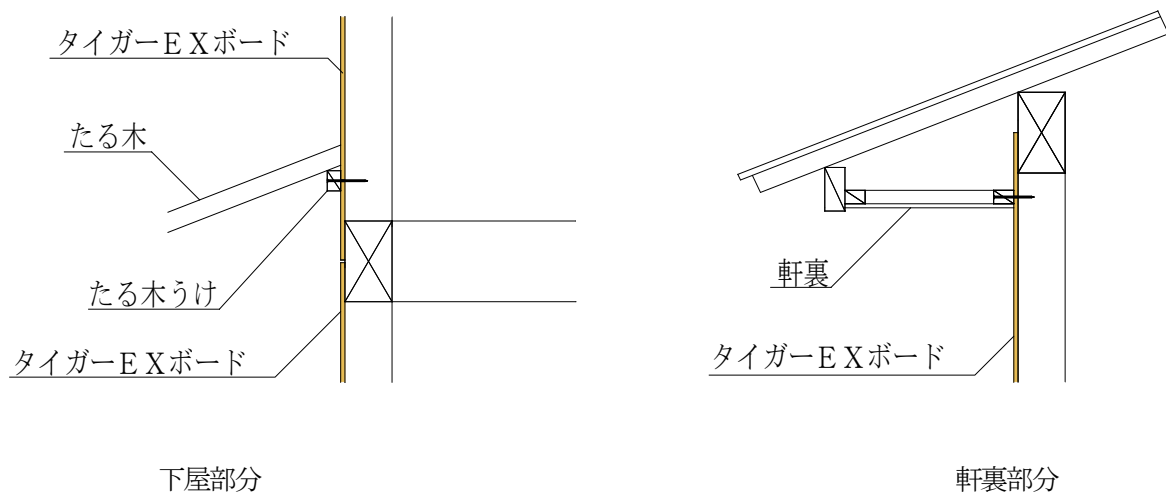


図14 下屋、軒裏納まり図

⑤小開口を設ける場合について

国土交通省住宅局建築指導課長通達（平成19年6月20日付国住指第1335号）に基づき、（公財）日本住宅・木材センター発行の「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017版）2.4.1(6)」においては、「開口部を設けない場合と同等以上の剛性及び許容せん断耐力を有するものとして開口部に該当しないものとして取扱うことのできる開口仕様」について以下の通り示されています。

タイガーEX ボードに小開口を設ける場合は、下記の①または②の方法で実施することについて、必ず指定確認検査機関等にご相談の上、実施してください。

①穴径（対角線）が114mm以下 ⇒ 補強不要

「穴径が12t以下かつ、L/6以下ならば補強不要」より

$$12t = 12 \times 9.5\text{mm} = 114\text{mm}$$

$$L/6 = 910\text{mm}/6 = 151.7\text{mm}$$

②穴径（対角線）が114mmより大きく、455mm以下 ⇒ 四周を受材等で補強して面材をくぎ打ちすれば可

「穴径がL/2（50cm程度）までなら、四周を受材等で補強して面材をくぎ打ちすれば可」より

$$L/2 = 910\text{mm}/2 = 455\text{mm}$$

※メートル幅の場合、500mmまで可

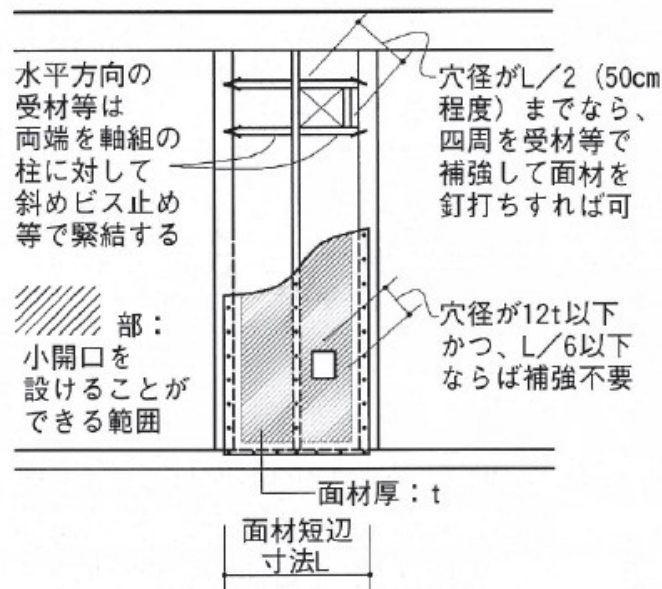


図15 剛性・耐力に影響しない面材耐力壁の小開口の設け方

「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2017版）」

（公財）日本住宅・木材技術センターP65 図2.4.1.10より引用

⑥開口部等、非耐力壁部分

- ・開口部等、非耐力壁部分に、タイガーEX ボードを施工しても、建築基準法の耐力壁や、品確法（住宅の品質確保の促進等に関する法律）の準耐力壁には該当しません。
- ・非耐力の外壁下地として使用する場合、平滑性を確保するために、NZ50 くぎを用いて外周部・中通りともに200mm 以下の間隔で留め付けてください。

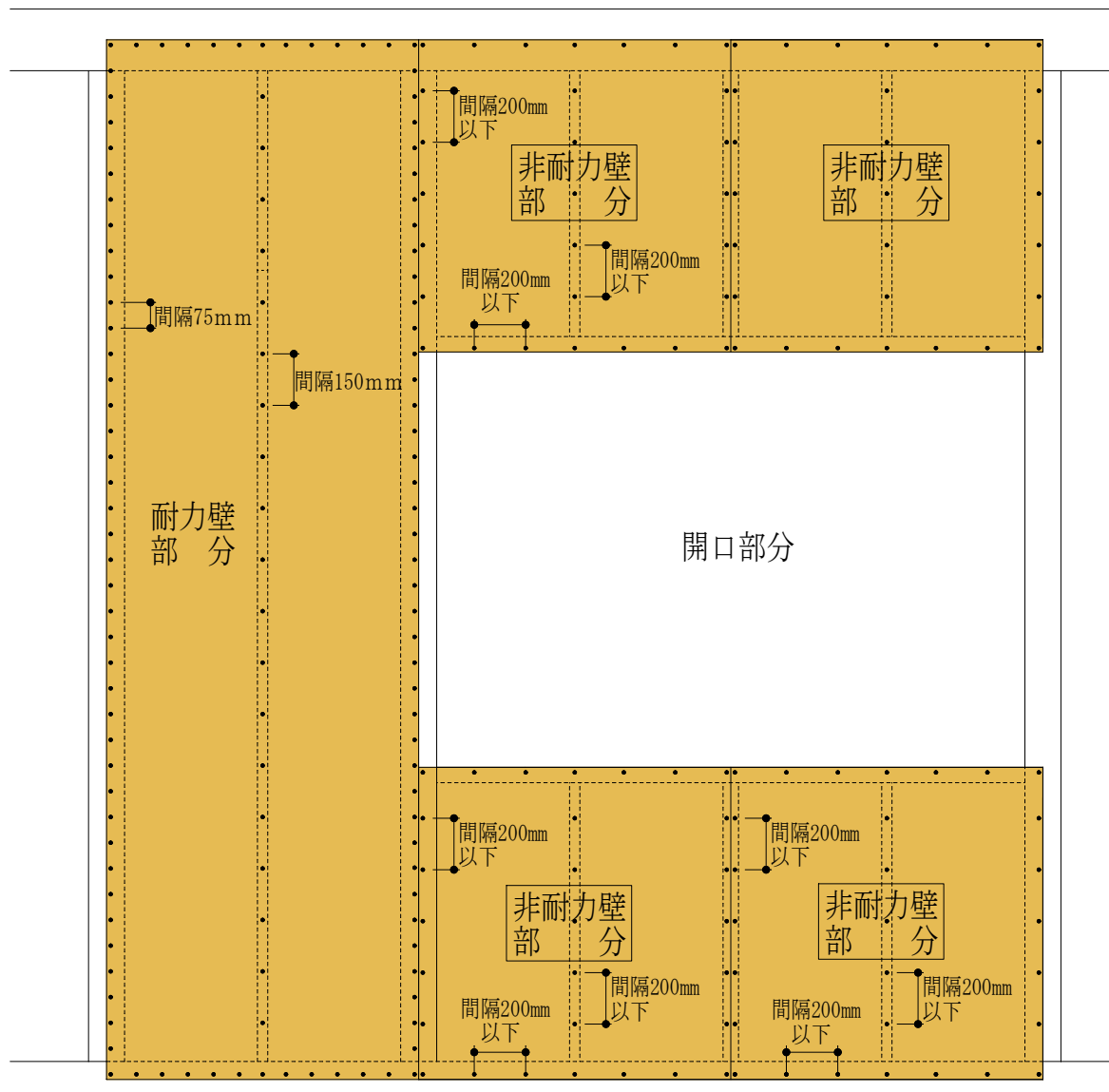


図 16 耐力壁・非耐力壁 納まり図

⑦面材の欠き込みについて

- ・タイガーEX ボード耐力壁は欠損部がないことを原則としておりますが、土台、横架材（梁、胴差、桁）の交差部分に補強金物（山形プレート等）を取り付ける場合や、直交梁等によりタイガーEX ボードのくぎ打ち部分に欠損部が生じる場合については、切欠き寸法を最小にした上で、欠損部により打てなくなったくぎと同数のくぎで留め付けてください（図18の場合1本増し打ち）。詳細については、図17および18を参照してください。
- ・図17および18の施工については、自社試験にて性能を確認しております。P27のQRコードから試験結果にアクセスできますので、指定確認検査機関等に必ずご相談の上、実施してください。

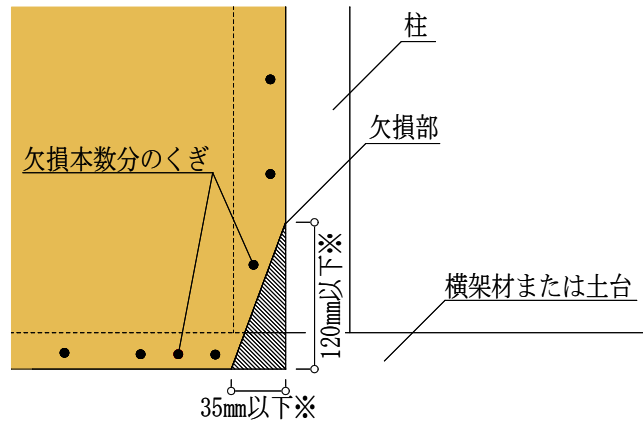
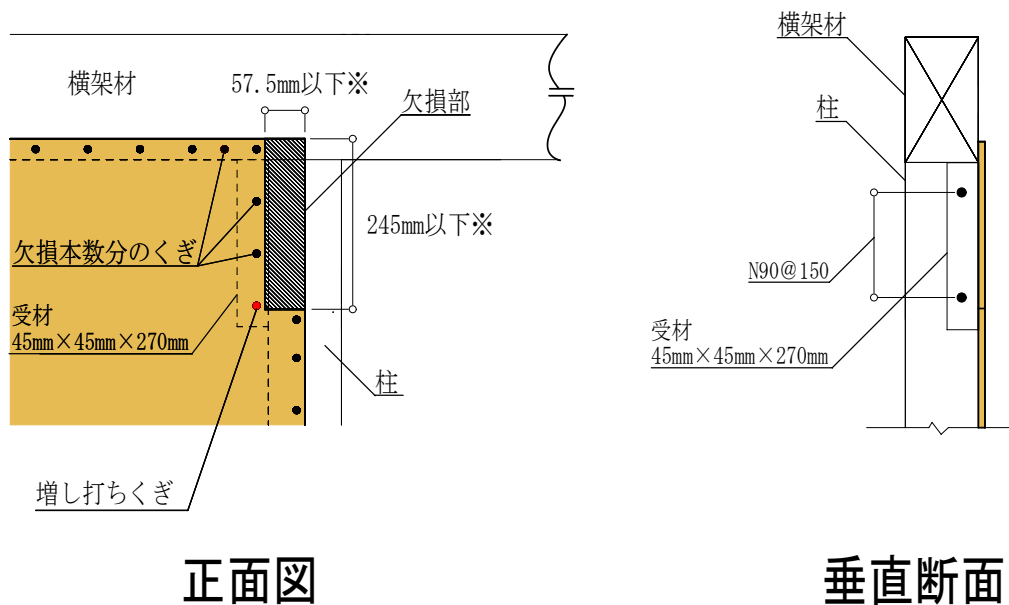


図17 欠損部補強例（山形プレート等）



正面図

垂直断面図

図18 欠損部補強例（直交梁等）

※欠損部に山形プレートや直交梁などを施工する場合は、5mm以上の隙間を設けるとともに、欠損部の規定寸法を遵守してください。

⑧縦継ぎ張りについて

- ・タイガーEX ボードは、胴つなぎを用いて縦継ぎ張りとすることも可能です。但し、各仕様の軸組材の概要は表10の通りとなっておりますのでご注意の上、必ず各認定書（別添）をご確認ください。
- ・縦継ぎ箇所は1箇所迄とし、下側面材寸法は、長さ1820mm限定となります。
- ・胴つなぎを設ける場合は、入隅部の受材に対して、「勝ち」となるよう施工してください。
- ・縦継ぎ張りの場合もくぎ本数が規定されております。面材寸法に応じたくぎ本数を厳守してください。尚、計算方法は、P8に記載の通りです。

表10. 軸組材の概要（縦継ぎ張り）

認定仕様	横架材間の内法寸法	胴つなぎ (断面寸法)
標準仕様 (FRM-0534-1 : 2.3倍)	2080mm～3075mm	見付け 60mm 以上 × 見込み 45mm 以上
床勝ち仕様 (FRM-0594 : 2.2倍)	2240mm～3000mm	
入隅仕様 (FRM-0599 : 2.3倍)	2180mm～2970mm	

⑨筋交い等を併用する場合について

- ・タイガーEX ボード耐力壁と筋交いを併用する場合は、倍率5倍を限度としてそれぞれの倍率を加算できます。
- ・タイガーEX ボードと筋交いを併用する場合は、間柱および継手間柱を切り欠いて施工してください。尚、切り欠き寸法は、筋交いの寸法に応じて最低限にとどめてください。
- ・内壁側のせっこう系耐力面材タイガーハイパーハードT（床勝ち2.4倍、床勝ち入隅2.3倍）、タイガーハイパーハードTネクスト（床勝ち3.0倍、床勝ち入隅2.8倍）を併用することも可能です。筋交いと同様に、倍率5倍を限度としてそれぞれの倍率を加算できます。

⑩タイガーEX ボードの防水処理について

- ・雨天時の施工は避けてください。雨天後の屋外施工は事前に施工完了した箇所が十分に乾燥していることを確認してから施工してください。
- ・タイガーEX ボードは、防水性、防カビ性を付与しておりますが、施工後は速やかに防水紙を施工してください。
- ・使用する防水紙はJIS A 6111 透湿防水シート（厚さ0.5mm以内のもの）とします。
- ・防水紙の張り付け施工は、製造元が発行する施工指導書または取り扱い説明書に準じ施工してください。
- ・防水紙が破れるなどして有効に防水措置を講じられない場合は、張替えまたは補修を行ってください。その場合、製造元が発行する施工指導書または取り扱い説明書に準じ、張替えまたは補修を行ってください。
- ・屋内に面する部分及び湿潤状態となるおそれのない部分に使用する場合、防水措置を省略する事ができます。

①耐力壁となる割付

・1Pの耐力壁

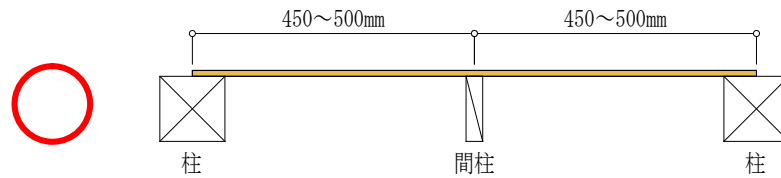


図19 1P耐力壁 納まり図

・2Pの耐力壁

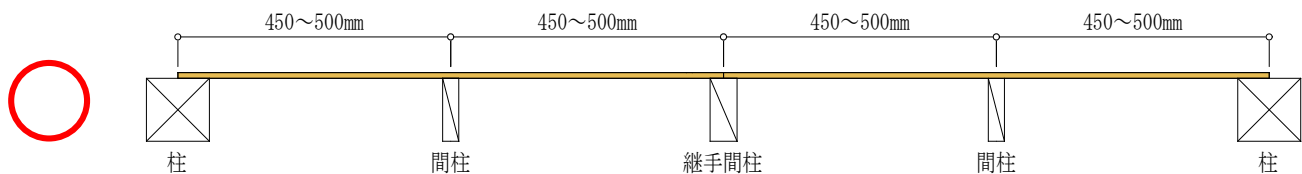


図20 2P耐力壁 納まり図

②雑壁（＝認定範囲外）となる割付

・1.5Pの壁

耐力壁の継手間柱と柱の間隔は、900～2000mmです。1.3Pや1.7P等も同様に雑壁となります。参考に1.5Pでの実験を行っておりますので、試験結果をご覧ください。P27のQRコードからアクセス可能です。

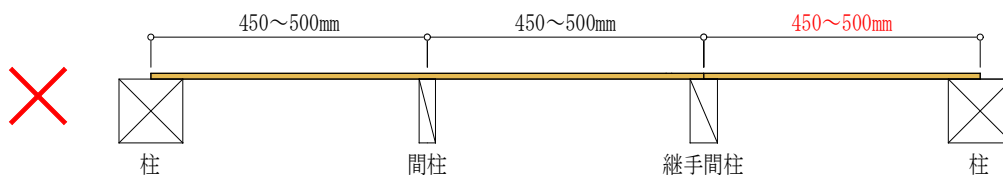


図21 1.5Pの壁 納まり図

・狭小幅の壁

耐力壁の柱間距離は、900～2000mm です。900mm 未満の場合（例：600 や 455 等）は、雑壁となります。

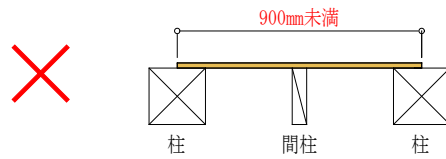


図 22 狭小幅の壁 納まり図

・3Pの壁

耐力壁の柱間隔は900～2000mmです。継手間柱を用いてタイガーEX ボードを継ぐ場合、水平方向に1箇所までとしてください。4P、5P等も同様に雑壁となります。

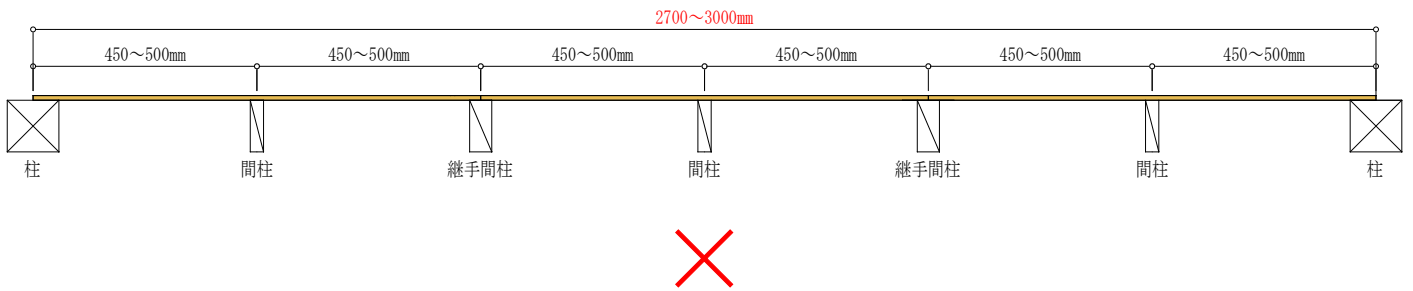


図 23 3Pの壁 納まり図

・端部が間柱および継手間柱となる壁

耐力壁の両端は必ず柱としてください。端部が間柱および継手間柱の場合は、雑壁となります。

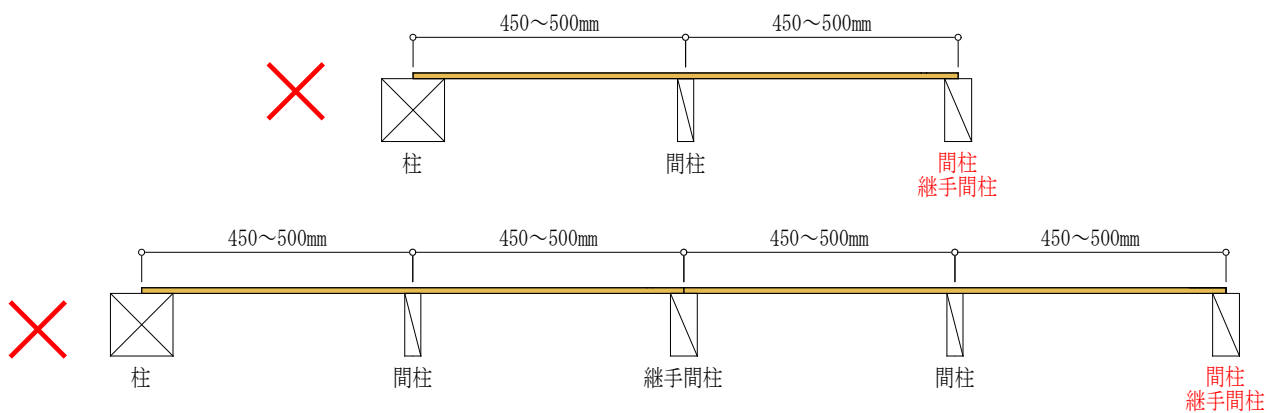


図 24 端部が間柱および継手間柱の壁 納まり図

⑬その他注意事項

- ・指定の用途以外にご使用の場合は性能を保証いたしかねます。
- ・タイガーEX ボードは、太陽光等が当たると変色する場合がありますが、性能に影響はありません。
- ・タイガーEX ボードの切断作業では集塵などに留意し、防塵カッターや集塵丸鋸を使用してください。
また、サンディングなどの作業で発生する粉塵に対しては、防塵マスクや安全メガネを着用してください。
- ・在庫の際、積層段数が多いと荷くずれの危険があります。
- ・タイガーEX ボードの廃材、梱包材および洗浄排水の処理は、環境公害とならないようご注意ください。
- ・タイガーEX ボードは、原則、通気層の設置と防湿シートの取り付けを行ってください。但し、「住宅性能表示制度の評価方法基準（平成13年国土交通省告示第1347号）第5の5の5-1（3）「ハ結露の発生を防止する対策に関する基準」等により通気層を省略できる要件を満たす、または防湿シートを省略できる要件をそれぞれ満たし、設計者様または施工者様が通気層及び防湿シートを省略できると判断する場合はこの限りではありません。
- ・弊社が取得している防火構造認定を使用する場合、本施工指導書と併せて、各防火構造の施工指導書に従って施工してください。
- ・タイガーEX ボードは、防腐防蟻処理が不要です（ただし、通気層を設けた構造で、木下地に防腐及び防蟻に有効な薬剤処理を行った場合）。詳細は、下記QRコードからアクセス可能な技術資料に記載があります。
- ・サイディング、サッシ等を取り付けるための胴縁や留付金具は、必ず柱・間柱等の木下地位置に取り付けてください（詳細は、各メーカーの施工方法をご確認ください）。

※その他、本資料に記載のない事項につきましては、あらかじめお問合せいただきますようお願い申し上げます。
また、本資料に記載のない事項で施工された場合は、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

[技術資料]

指定確認検査機関や建築主事に、施工のご確認をする際は、こちらのQRコードへアクセスし、技術資料をご利用ください。



QRコード